

子ども用の福祉用具です！

富谷のメーカー 会報で発信

福祉用具を製造販売するジェー・シー・アイ(宮城県富谷市)が発足させた車いすなどを使う子どもと家族のコミュニティが活動の幅を広げている。福祉用具に関する情報を共有できる場として支持され、全国で会員数を増やし、昨年4月にNPO法人「ハロー」として独立した。優れた福祉用具をもっと知ってもらおうと、今月29、30日には東北最大規模の展示会を仙台市で初めて開催する。

コミュニティは2022 合うのか、同じ障害の子どもも毎年、ジェー・シー・アイ内の有志組織として発足した。現在は、全国の障害児と家族ら約750人が会員登録する。年2回発行する会報を通じ、子ども向け福祉用具の最新情報や使い方の工夫などを発信している。

仙台市青葉区の主婦舟橋菜悠さん(36)は、四男の輪樹ちゃん(4)が同社の幼児用車いすを使い始めたことをきっかけに、コミュニティの存在を知った。舟橋さんは「他にどんな用具か」と話す。

初回の展示会は「トウホク・キツズ・ドリーム・フェスタ」と題し、仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパスで開く。全国57の企業や団体が出展し、最新の車いすや歩行器、会話が困難な障害児向けのコミュニケーションシオン機器などを紹介。実際に触れて体験できるようにもする。

佐々木さんは「情報不足による選択の格差をなくし、生活を楽しくするアイテムを探せる機会になればいい」と狙いを説明する。

29日は午前10時～午後5時、30日は午前9時半～午後5時。入場無料。東北福祉大と宮城県立こども病院(青葉区)が協賛し、仙台市が後援する。連絡先はハロー事務局070(6567)0313。



最新型の子ども用車いすに試乗する輪樹ちゃん(左)と母の菜悠さん

29、30日 仙台で展示会